高 岡 の 仏 壇

【産地の特色】

高岡の仏壇は、慶長年間に指物師（さしものし）・大場庄左衛門が高岡に移り住み、家具に漆塗装を行ったとする記録があることから、このころが高岡における仏壇製造の始まりとされている。その後、天保年間（1830～1844）に仏壇塗師・高森重次郎の活躍等により、現在の高岡仏壇の基礎が確立されたものと考えられている。

高岡は仏教への信仰心が篤い地域であり、当産地では江戸時代から現代まで、仏壇産業が持続的に発展してきた。

伝統的な高岡仏壇は、材料として柱にクサマキ（青森ヒバ）材を、板にイチョウ材を使用する。また、高岡銅器の彫金（ちょうきん）の技術を受け継ぎ、装飾性に優れた金具の使用箇所が多いことも特徴である。さらに、彫刻を多く用い、金箔が仏壇内部の全面に箔押しされた、荘厳かつ華やかな金仏壇が主流である。

また、伝統的な漆塗りの技術を継承し、蒔絵（まきえ）や組子（くみこ）を手掛ける職人も製造に携わるなど、高岡の漆工、木工、金工の技術の粋を集めた総合芸術ともいえるものである。

平成 25 年に富山県伝統的工芸品の指定を受けている。

※本稿では高岡以外の産地で生産されたものであっても、伝統的な高岡仏壇の様式に則って製作された高岡型仏壇も含めて「高岡仏壇」と呼称している。

【動向】

令和４年度の販売額は、約９億１千万円であり、対令和２年度比 16.3%増加している。令和４年度は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動も徐々に再開されたことが主な増加要因と推察される。

地域別の販売先割合は、高岡市内が 25.7%であり、高岡市内を含め富山県内で 89%を占めた。

品種別販売割合を見ると、「高岡仏壇」が 5.7%、「その他の金仏壇」が 15.3%、「唐木仏壇」が 5.5%、「家具調仏壇」が 18.0%、修繕等その他で 55.6%を占めている。昨今の生活スタイルや住宅様式の変化により、新規の仏壇の販売数は減少傾向にあり、購入されても相対的に安価な「家具調仏壇」が選ばれる傾向にあると思われる。

伝統的な高岡仏壇は、修理を重ねながら世代を越えて受け継がれるものとされてきたが、今後は現代の住宅様式に適応したデザインの新商品開発や、寺院建築に係る修復等、新たな需要開拓も必要であると考えられる。

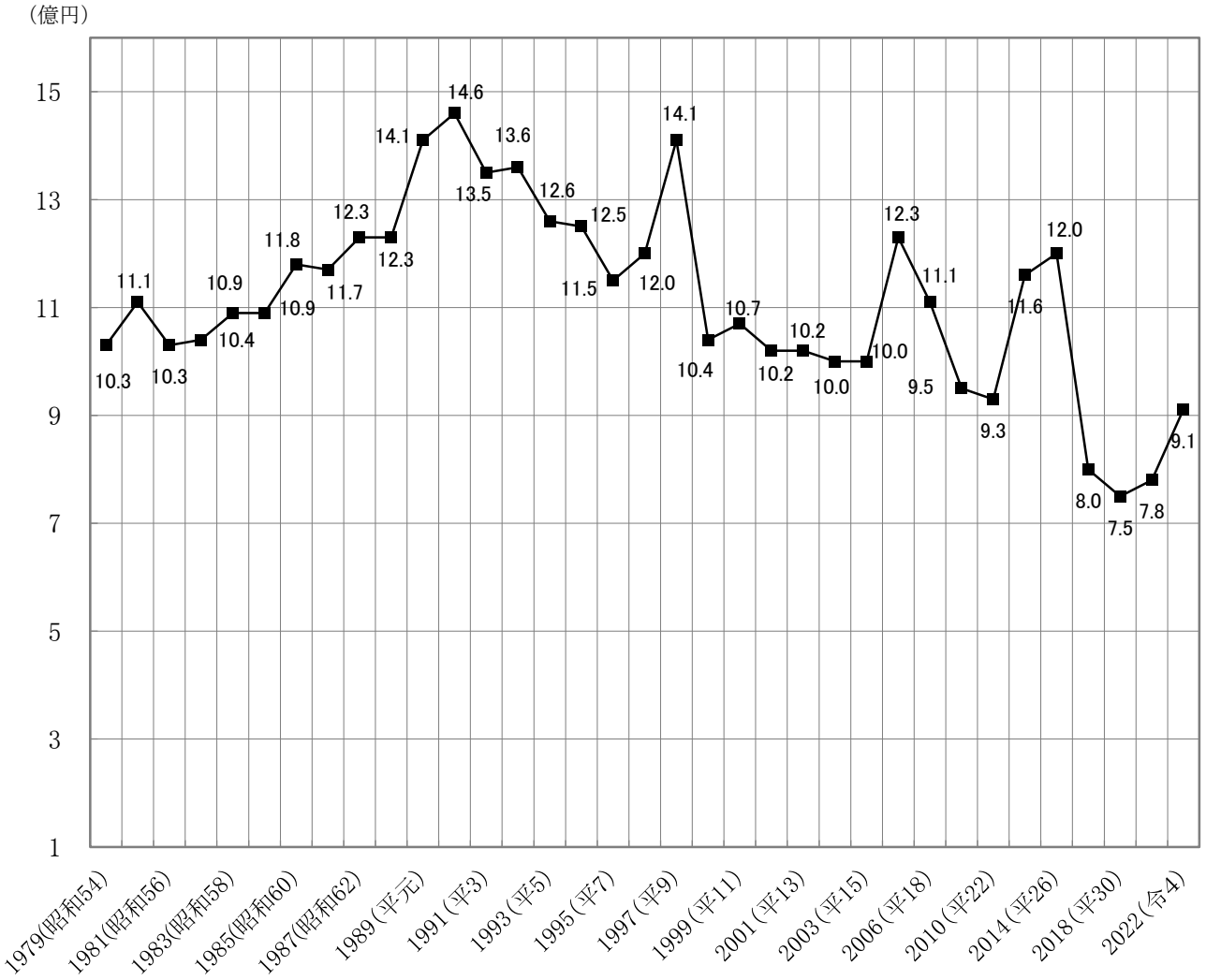
高岡の仏壇

【販売額の推移】(単位:千円、%)

年	販売額	前回比
2014(平26)	1,203,995	―
2016(平28)	801,427	66.6
2018(平30)	750,699	93.7
2020(令2)	783,260	104.3
2022(令4)	911,075	116.3

【品種別販売額】(単位:千円、%)

品種	2022(令4)	構成比
高 岡 仏 壇	51,500	5.7
その他金仏壇	139,143	15.3
唐 木 仏 壇	50,438	5.5
家具調仏壇	163,809	18.0
修　繕　等	75,569	8.3
仏壇以外(神棚等)	430,616	47.3
計	911,075	100.0

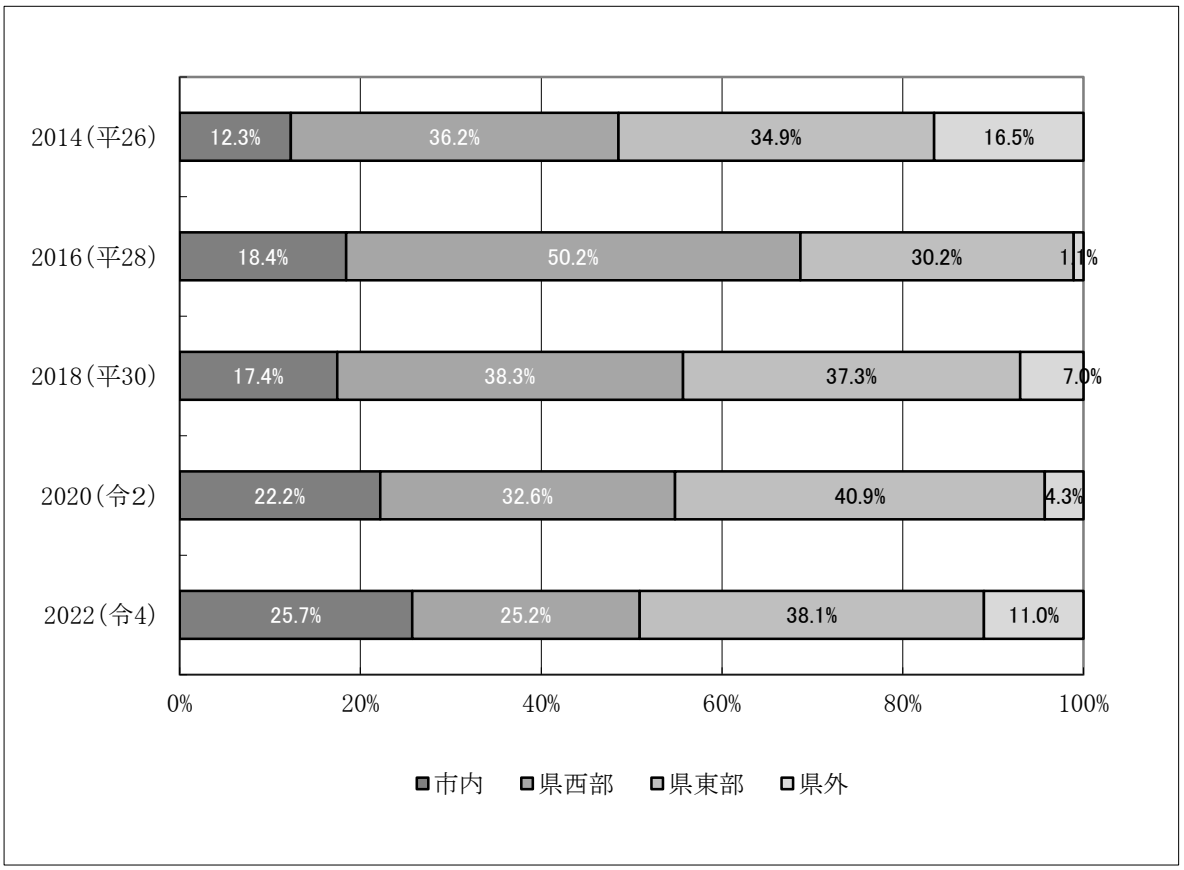


【事業所数と従事者数】

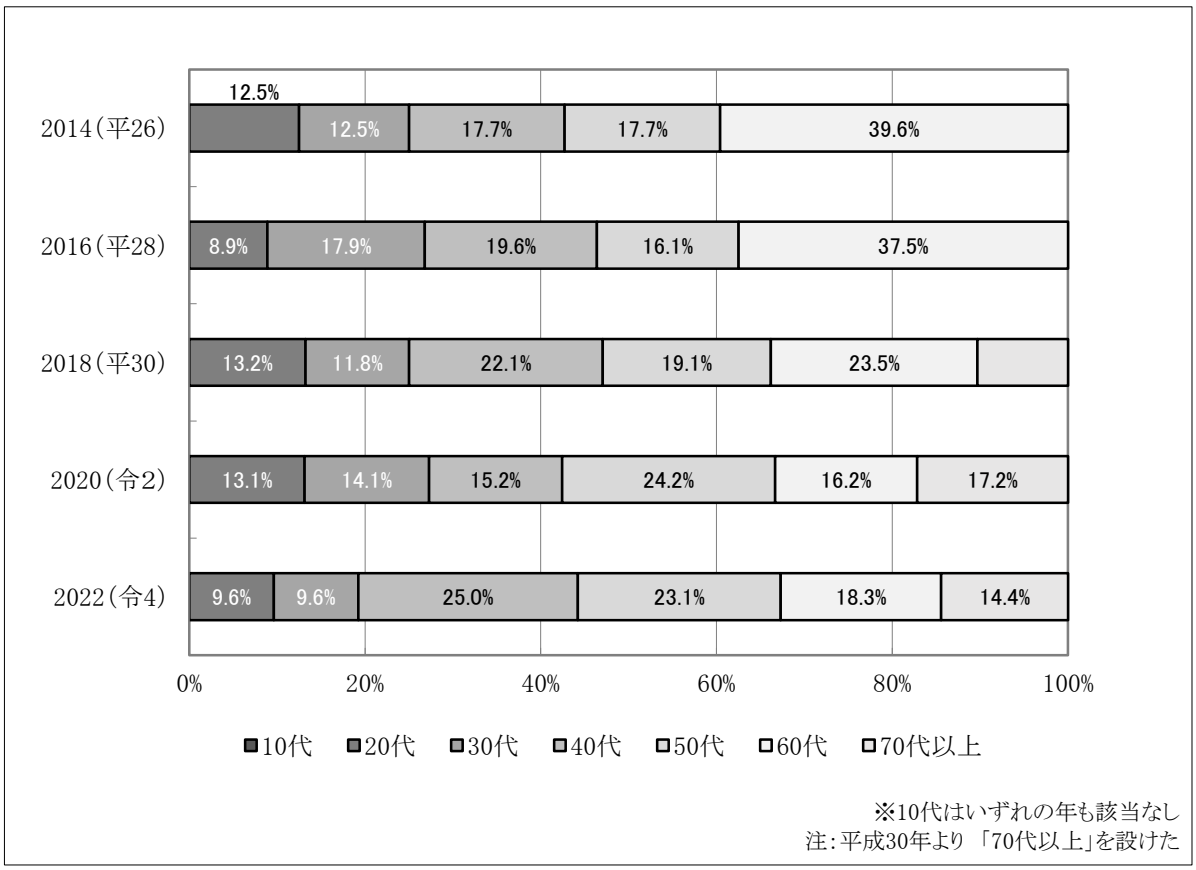
業種	2022(令和4年)		2020(令和2年)		前回比(%)	
	事業所数	従事者数	事業所数	従事者数	事業所数	従事者数
製造販売業	11	104	13	99	84.6	105.1

高岡の仏壇

【地域別販売先割合の推移】



【製造販売業従事者の年齢構成割合の推移】



※10代はいずれの年も該当なし
注:平成30年より「70代以上」を設けた